

# 『3.16事件』についての 動労千葉の見解



81.4.2  
No.705

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六(公電)四三三二七二〇七

わが動労千葉は、去る3月30日サ三回定期委員会を開催し、3週間にわたる三月ジェット決戦闘争とりわけ5日間のストライキの画期的な意義について全体で確認すると同時に、『3.16ジェット燃料列車ゲリラ事件』について左記の「声明」を満場一致採択した。

## 声 明

一、 わが動労千葉千三百労働者が満を持して突入した、二・一九助役機関士線見阻止闘争を皮切りにする三週間にわたる決戦闘争、なかならず五日間のストライキは三里塚芝山連合空港反対同盟をはじめとする全国の労働者人民の重層的支援連帯のもと圧倒的に貫徹された。

実現された三月ジェット決戦闘争は、三里塚闘争の勝利的展望を確実に切り拓く一大突破口をきりひらき、日本労働運動・国鉄労働運動の戦闘的活性化・流動化を生み出し、政府・当局を震かんとさせ、同時に三里塚と日本労働運動の阻害敵対物と化した動労革マル反動分子に一大痛打をあげせ、三里塚を天王山とする日本階級闘争の新たな情勢を確実に我が手に握りしめる偉大な成果を獲得した。

いま、動労千葉はふたたび、みたび、三月ジェット決戦闘争を実現すべく、さし迫った国鉄当局による報復的大量不当処分策動、ストライキ損害訴訟策動をはじめとする組織破壊を意図した新たな反動に抗し戦線構築のために奮闘している。

二、 三里塚空港ジェット燃料貨車輸送延長攻撃は、政府自民党・国鉄当局が「暫定貨車輸送は三年間」という自らの閣議決定と、労使間の約束を一方的に反古にするという許し難い暴挙である。

ましてや、強権と弾圧をもって反人民的空港機能を維持し増大させんとする二期工事年内着工策動、ジェット燃料貨車輸送延長攻撃は、全人民の怨嗟の的であることは必然である。それゆえに、これに反対し闘うことはすべての人民が共有する当然の権利であるし、わが動労千葉に呼応して闘うこともまた当然であると考える。

しかも、ジェット燃料貨車輸送延長を「国策のため」と称して、法を無視し、問答無用とばかりにあらゆる攻撃をしかけてきた権力・当局の反動的弾圧・スト破り攻撃を見るならばなおさらである。

二月二十一日、スト破り助役機関士の線見を当然にも拒否した乗務作業中の機関士を公安機動隊を使って運転室から暴力的にひきずり降したと、さらに助役機関士を導入して公然とスト破りを行い、そのことによって旅客列車は全面ストップ、ジェット燃料列車のみ運行という異常な事態を意にかいしなSUSの国鉄当局の反人民的姿勢は社会的に糾弾されなければならぬ。

三、 かくして、わが動労千葉が、三里塚と労働運動の大義のために職をかけ、首をかけ、組織をかけて「ハンドルを握り、鉄路を武器に」労働組合の基本路線にふまえて決然とうちぬいた五日間のストライキは、三里塚・ジェット闘争の圧倒的正義性を満天下に明らかにするとともに、国家権力・当局の理不尽なジェット燃料輸送強行の許しがたい反人民性・反労働者性がかつてなく鮮明に浮きぼりにした。

わが動労千葉の決然たる実力ストライキは全人民を限りなく感動させ、決定的に鼓舞激励するとともに、ジェット燃料強行輸送に対する人民の押えがたい怒りの集中を当然にも生み出したのである。

四、 国鉄当局によるジェット燃料貨車輸送延長強行にあることをきっぱりと指摘するものである。

わが動労千葉は、今回の事件の一切の根源とその責任が、人民の意志を無暴にもじゅうりんした政府・動労「本部」革マル反動分子は、権力・当局の意を呈して卒先して行ったスト破り行為をいい逃がれ、正当化するために、今回の事件を悪用して、ここぞとばかり三里塚闘争を権力の謀略であるとして、反動的デマゴギーをふりまくてであろう。そして動労千葉、反対同盟をはじめとする全国の支援・連帯の力がかちとった三月ジェット決戦闘争の成果を傷つけんと必死に策動することは明らかである。

わが動労千葉は、かかる息な策動を踏みつぶし、三月ジェット決戦闘争がかちとった成果を堅持・発展させるものとして、組織の真価をかけて、報復的大量不当処分攻撃をはじめとする新たな反動を粉碎し、第二・第三の三月ジェット決戦闘争を準備し、三里塚闘争の勝利と国鉄労働運動・日本労働運動の戦闘的再生に向け、さしあたり当面する八一春闘勝利を目ざし断固として闘いぬくことを明らかにする。

一九八一年 三月 三〇日

国鉄千葉動力車労働組合